

2014.2

中国風険消息＜中国関連リスク情報＞ 2月号

※中国語で「風険」はリスク、「消息」は情報・ニュースの意味です。

＜2013 No.10＞

「中国風険消息＜中国関連リスク情報＞」は、中国に拠点をお持ちの企業の皆様にお届けするリスク情報誌です。中国における種々のリスク(火災等の事故、自然災害、法令違反、情報漏えい、労務リスク等)について、時節に応じた話題や、社会の関心が高いトピックを取り上げて解説しています。

中国でのビジネスを円滑に進めるために、日本でできる多角的な情報収集

尖閣諸島の問題に端を発して 2012 年に多発した反日デモや、昨年の安倍首相による靖国神社参拝など、近年は日中関係に波紋を起こすような出来事が目立った。このような出来事が発生すると、両国および周辺各国の政府からのコメントや、メディアによる批判的な報道、様々な場所での抗議行動等に関するニュースが立て続けに報道されるようになる。一般に、マスメディアによる報道は世間の耳目を集めそうな対象に偏る傾向があるので、このようなニュースばかりが続くと、中国の現状に対して偏った印象（例えば中国全土で抗議行動が発生しているのではないか、中国人はみんな反日感情が強いのではないか、もう中国でのビジネスは出来ないのではないか、等）を抱いてしまう方も少なくないのではないかと危惧される。

本稿では前述のような問題意識に基づいて、中国を多面的にとらえて、より広く深く中国のことを知るために役立つと思われる情報源を紹介する。多忙な日常の中で、多くの情報源にアクセスするのは容易ではない。しかしながら、本稿で紹介するものも含めて複数の情報源に日ごろから接し、様々な観点から中国に関する情報をインプットしておくことが、偏った印象を抱くことを防いでくれるものとする。

今さら言うまでもなく、中国はいろいろな意味で多様性に富む広大な国である。中でも特徴的なのは、13 億人を超える総人口の 9 割以上を漢族が占めるとはいえ、50 以上の民族を抱える多民族国家であることだ。例えば深センや珠海などの経済特区や、日本企業が多く進出しているような沿岸地域では、遠方の内陸地域を含む中国全土からの人口流入が著しいため、出身地域が異なる人々が狭い地域の中に混在している。さらには日本と比較にならないような所得格差もある。「中国人」として一括りにはできないほど、それぞれ異なる考え方や感じ方、価値観を持っている人々で成り立っているのである。

こういう状況下で、もしビジネスの場面で中国人と接する際に、相手に対してステレオタイプ的な印象を持ってしまうと、意思疎通がうまくできなかつたり、誤解を生んだり、心証を悪くしたり、といった問題につながりかねない（もちろんこれは中国に限った話ではなく、他の国においても、さらには日本においても注意すべきことである）。しかしながら、特に中国に関しては前述のとおり、マスメディアによる報道から偏ったイメージを形成し、それをもとにステレオタイプ的な見方をしがちな状況にあるといえる。したがって、中国でビジネスを成功させるには、中国ならではの道徳観や文化、商習慣等を理解しつつも、固定概念にとらわれすぎず、ニュートラルな姿勢で、相手の考え方や価値観に合わせて柔軟に対応できるようにする必要がある。

ここで筆者自身の経験から、中国の多様性を感じた例をひとつ紹介したいと思う。筆者は上海で毎年開催されている「BCI China Conference」に、2012 年と 2013 年の二回連続で参加した。これは BCM（事業継続マネジメント）の普及啓発団体である BCI が主催しているイベントで、中国在勤の BCM コンサルタントや、企業などでの BCM 担当者等が多数出席し、国内外から多彩なゲストスピーカーを招いて

行われている。2012 年と 2013 年とは同じ会場で開催されたが、これら二回のイベントにおける、筆者の上海のビジネスパーソンに対する印象は大きく異なるものであった。

2012 年は欧米系企業に勤める中国人の出席者が多かった。英国やオーストラリア、マレーシア、日本等から講師を招いたこともあり、講演は英語のみで行われたが、全ての出席者が不自由なく英語を使いこなしており、質疑応答も活発であった。食事をしながら雑談をしても、またグループディスカッションの時間に議論していても、話の内容や考え方から、何となく中国人というよりは欧米のビジネスパーソンのような雰囲気を感じた。ちょうどその頃、より良い待遇やキャリアアップを求めて短期間で転職を繰り返す、いわゆるジョブホッピングが上海で非常に多いという話を聞いていたが、まさにそのようなイメージが当てはまるような、上昇志向が強い人々という感じであった（実態としてはジョブホッピングは欧米系企業に限った話ではないのだが）。

ところが翌年の同イベントに参加したところ、雰囲気が一変していた。イベントの運営体制が英系の企業からシンガポールの企業に移り、集客方法が変わったためと思われるが、外資系企業からの参加が減り、国内資本の企業からの参加が増えた。その結果、2012 年の時に見られた「欧米らしさ」がほとんど感じられなくなったのである。セッションの多くが中国語で行われたということも影響していたかも知れないが、参加者の中で英語でコミュニケーションが取れたのは比較的少数であった。2012 年に比べて 2013 年の方が、中国政府や行政に対する批判的なコメントが少なかったという違いもあった。BCM という狭い業界のビジネスパーソンが集まる、同じような内容のイベントでも、ここまで違うのかと驚いたのである。

中国のことを多面的に、より深く知りたいと思ったら、やはり何と言っても現地に自ら足を運ぶのが一番だが、時間、費用、言葉の問題などもあって容易ではないと思われるし、一人で見聞きできる範囲にも限界がある。そこで本稿では、日本で入手できる日本語の情報で、中国に対する理解を深めるのに役立つと思われるメディアを紹介したい。

(1) 日本国内大手マスメディアの Web サイト

前述のとおり、新聞やテレビ等による報道は、その時々注目されている事象に偏りがちである。一方で大手マスメディアの Web サイトには、中国駐在の記者によるコラムを掲載しているものがある。これらの記事は、ニュースとして報道される直近の事象よりも、中国での日常生活や世間の動向などが中心に書かれていることが多く、報道記事とは別の視点を提供してくれる。

朝日新聞 - 風（海外総局長によるリレーコラム）（会員登録が必要）

<http://www.asahi.com/rensai/>

（このページの下の方に記事の一覧がある）

朝日新聞 - 特派員リポート（会員登録が必要）

<http://www.asahi.com/international/list/correspondent.html>

毎日新聞 - 上海交差点（無料の会員登録が必要）

<http://mainichi.jp/opinion/column/sumi/>

msn 産経ニュース - 外信コラム

<http://sankei.jp.msn.com/column/topics/column-14796-t1.htm>

（このページの下の方に記事の一覧がある）

(2) 中国に特化した情報 Web サイト

次の三つのように、中国関連の情報に特化した Web サイトでは、中国国内のメディアで報道されている情報をはじめ、中国国内の Web サイトやブログ、ソーシャルメディア等で話題になっていること等、中国国内の出来事が幅広く紹介されている。

サーチナ(Searchina)

<http://searchina.ne.jp/>

レコードチャイナ

<http://www.recordchina.co.jp/>

新華経済

<http://xinhua.jp/>

また、これらのサイトの主要な記事は「Yahoo!ニュース」にも配信されているので、下記サイトで読むこともできる。

Yahoo!ニュース [国際]-[中国・台湾]

<http://headlines.yahoo.co.jp/h1?c=cn&t=1>

(3) 海外マスメディアの Web サイト

ウォールストリートジャーナルやニューズウィークといった海外の雑誌の Web サイトでも、中国関連の記事を日本語で読むことができる。独自取材された記事が多く、日本国内のメディアとは違った観点の記事や、より深く掘り下げられた記事が読める。中国に対する欧米人の視点を知るという意味でも参考になるのではないだろうか。

ウォールストリートジャーナル日本版 - 国際 - アジア・オセアニア

<http://jp.wsj.com/public/page/japan-news-asia-oceania.html>

ニューズウィーク日本版 - ワールド

<http://www.newsweekjapan.jp/stories/world/>

また、(株)日本ビジネスプレスが運営しているサイト「JBpress」は、英 Economist 誌、英 Financial Times 誌の記事を翻訳して掲載している。

JBpress - 海外

<http://jbpress.ismedia.jp/category/global>

なお次のサイトは英語だが、中国語が分からなくても現地の報道内容が読めるという価値があるので、参考までに紹介しておきたい。香港の日刊紙の Web サイトである。画面の上の方にあるメニューで「International 版」と「Hong Kong 版」を切り替えるようになっており、いずれも英語だが版によって表示される記事が異なる。

南華早報(South China Morning Post)

<http://www.scmp.com/frontpage/international> (International 版)

<http://www.scmp.com/frontpage/hk> (Hong Kong 版)

(4) 中国事情に詳しい人による論説やコラム

研究者やフリーランスのジャーナリスト等といった、中国事情に詳しい個人による論説文やコラムも、様々な観点から中国を知るうえで役に立つ。ここでは、中国に関する論説やコラムが、ある程度まとまって掲載されており、無料で読めるサイトを紹介する。

ニューズウィーク日本版 コラム「中国 風見鶏便り」(執筆はフリーランスライター、ふるまいよしこ氏)
<http://www.newsweekjapan.jp/column/furumai/>

JBpress - 海外

<http://jbpress.ismedia.jp/category/global>

(複数の著者による論説文が、前述した Economist 誌や Financial Times 誌等の記事と同じページに並べて掲載されている)

もちろん、これらのように無償で読める Web 媒体以外に、新聞や雑誌などで連載されている論説文やコラムも合わせて読まれることをお勧めしたい。

(5) ソーシャルメディア

中国国内では Facebook や twitter 等のサービスは規制のため利用できなくなっているが、実態としてはこれらのサービスに投稿している中国在住の日本人や中国人もいる。twitter であれば、中国在住のユーザーのアカウントを何人か探してフォローしてみるのも一方法である。

ちなみに朝日新聞は日本のマスメディアの中では twitter の利用に積極的で、記者が固有の twitter アカウントを日常的に使用しており、記者のアカウント一覧を下記のページで公開している。もし中国在住のユーザーのアカウントに心当たりがないならば、この一覧の中から中国支局に勤務している記者のアカウントを探してフォローしてもよいだろう。その人がフォローしているユーザーの中から、さらに多くの中国在住ユーザーを見つけることもできる。

朝日新聞社記者の twitter アカウント一覧

<http://www.asahi.com/sns/reporter/>

また、中国国内では Facebook や twitter が規制されている代わりに、これらに類似したソーシャルメディア（例えばマイクロブログ「微博」等）が広く使用されている。投稿内容を直接読むのは困難だが、前述の情報サイトやコラムでは、中国で発生した出来事や、中国で報道されたニュースに対して、ソーシャルメディア上でどのような反応があったか紹介されることがある。もちろん中国においても、ネットユーザーにはある程度の偏りがあり、一般的な市民の反応を代表しているとは言えないが、ひとつの事象に対する様々な感情や考え方がソーシャルメディア上で行き交う場面を、間接的に見ることができる。

本稿では、できるだけ日本に居ながら中国のことを多角的に、より深く知るための情報源を紹介してきたが、このような情報メディアは必要な時だけ活用するのではなく、少しずつでも良いので普段から様々な記事を読んでおき、日頃から中国の日常について把握しておくことが大事ではないかと思う。例えば反日暴動のような事象が発生したときには、集中的に情報収集することになると思うが、その際に日常の状況をあらかじめ知っていて基礎ができている場合と、そのような基礎を持たずに最新情報を仕入れる場合とでは、情報に対する見方が違うはずである。また、中国に対して多角的な視点を持ち、認識の偏りを少なくしておくことが、中国企業との商談や、現地法人での従業員のマネジメント

ト、さらには現地駐在の日本人あるいは中国人とのコミュニケーションなどの様々な場面で、無用な誤解やすれ違いを減らし、相互理解を助けてくれると考えられる。業務で中国と関わる皆様には、ぜひ少しずつでも普段から多角的に情報収集して、中国に関する認識の基礎を作っておくことをお勧めしたい。

もちろん、仕事であれプライベートであれ、もし中国を訪れる機会に恵まれたら、アンテナを高く張って、可能な範囲でいろいろなところに足を運び、あちこちに目を向けて、日本で得た知識やこれまでに抱いた印象と比べてみていただきたいと思う。例えば上海浦東国際空港から市街地までリニアモーターカー（空港内で「磁浮（Maglev）」という案内看板が出ている）に乗れば、自分自身が近代的な車内にいる一方で、窓の下には開発が進んでいない地域が広がっていて、そのギャップに驚く。また終点から地下鉄に乗り換えると、社内にはヘッドフォンをかけた小奇麗な身なりの学生もいれば、地方から出稼ぎに来たと思われる労働者風の人々など、実に様々な乗客がひしめき合っている。こういう光景を見て何を感じるだろうか（タクシーや直行バスを使ってしまったら、こういう光景には気付きにくいかもしれない）。ぜひテレビやガイドブック等では分からないような中国の現実を目に向け、理解を深めていただければと思う。

(株) インターリスク総研 コンサルティング第二部
マネジャー上席コンサルタント 田代 邦幸

株式会社インターリスク総研は、MS&AD インシュアランスグループに属する、リスクマネジメントに関する調査研究およびコンサルティングを行う専門会社です。中国進出企業さま向けのコンサルティング・セミナー等についてのお問い合わせ・お申込み等は、下記の弊社お問い合わせ先、または、お近くの三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保の各社営業担当までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先

(株)インターリスク総研 コンサルティング第二部

TEL.03-5296-8918 <http://www.irric.co.jp/>

瑛得管理諮詢（上海）は、中国 上海に設立されたMS & ADインシュアランスグループに属するリスクマネジメント会社であり、お客様の工場・倉庫等へのリスク調査や、BCP策定等の各種リスクコンサルティングサービスを提供させて頂いております。お問い合わせ・お申し込み等は、下記の弊社お問い合わせ先までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先

瑛得管理諮詢（上海）有限公司（日本語表記：インターリスク上海）

上海市浦東新区陸家嘴環路 1000 号 恒生銀行大廈 14 楼 23 室

TEL:+86-(0)21-6841-0611（代表）

本誌は、マスコミ報道など公開されている情報に基づいて作成しております。

また、本誌は、読者の方々および読者の方々が所属する組織のリスクマネジメントの取組みに役立てていただくことを目的としたものであり、事案そのものに対する批評その他を意図しているものではありません。

不許複製／Copyright 株式会社インターリスク総研 2014